

■米国：2019年第3四半期における住宅用太陽光が過去最高の導入量を記録

マーケットリサーチ・シンクタンクと太陽エネルギー産業協会（SEIA）は2019年12月12日、米国の太陽光発電市場のレポートを発表し、2019年第3四半期における住宅用太陽光発電設備の導入量が、過去最高の71万2,000kW（前年同期比8%増）を記録したことを明らかにした。なお同期における太陽光発電全体（住宅用以外を含む）では、260万kW（前年同期比45%増）が導入され、太陽光発電の総設備容量は7,130万kWになった。今期の特徴としては、15州が住宅用太陽光で四半期としては過去最高を記録したことを挙げ、具体的にはアイダホ、ワイオミング、ニューメキシコ、アイオワ州などで、価格競争力の改善等により増加が見られるとしている。また、住宅用太陽光の最大の市場は引き続きカリフォルニア州で、今期に約30万kWが導入され、四半期記録を更新した。同シンクタンクによれば、これは主に新築のソーラー需要と、山火事防止のための計画停電（fire-prevention power outages）により、ソーラーと蓄電池を組み合わせたソリューションに対する消費者のニーズが高まっており、この傾向は2020年も続くとしている。